令和4年(2022年) 学校評価報告書

領域	評価の観点	評価項目	重点目標	取組状況・成果	課題	評価
学校運営	教育方針	可能性に挑戦するために必要な力(確かな学力・豊かな心・健やかな体)を育成	授業力の計画・工夫、学校行事、部活動、キャリア教育の活用	やる気になる授業、工夫された授業の実施、授業時間の確保、行事の意義、健康な身心を作る部活動等の視点から検証した。	入学者の感性も社会状況・時代背景によって変わっている中で、時代の変化に応じた対応を行う	2.8
		主体的に学習に取り組む態度を育成	正課の授業、探究活動、アクティブラーニング型授業を通じた育成	正課の授業を通じて基礎学力の定着を図り、探究活動の浸透で双方向的な授業が成立している。これにより主体的に思考力・判断力・表現力等が育成されている。	生徒が自ら考えて行動して取り組む環境に馴染ませることが必要	3.2
		高い語学力、数理的理解力及び情報活用能力の育成	英語教育、理数教育、ICT教育の充実	ネイティブによる英会話授業、オンライン英語会話の実施で語学教育を推進。多数の実験観察の実施で理数教育も推進している。	理数重点化に伴い、さらに理数教育、情報教育を推進する	3.2
		主体的に変化に対応しつつ、自ら問題の発見・解決に取り組む力の育成	特別講座・演習授業、探究活動の充実	探究活動を通じて主体的に取り組む姿勢、課題解決に向けて考える力、協働する力を持つ生徒が増えている。	主体的に対応できない生徒に対する方策の研究	3.2
		他者を尊敬し、他者と協力して物事を達成する態度と能力の育成	HR活動、学校行事、部活動、道徳教育の充実	全教員で道徳教育を実施するなど、他者理解、チームワーク、コミュニケーション力等を磨く教育は推進できた。	他者理解、団体行動、チームワークの大切さを更に道徳教育の推進によって向上させる	3.3
		異文化理解の精神等を身につけてグローバルに活躍する力の育成	学校行事、茶華道、国際理解の充実	異文化理解を身につけた人材育成のために、座学のみでなく学校行事やさまざまな研修を実施。コロナが少し収まった時点で海外研修も実施できた。	伝統・文化の継続伝承を、今の時代・これからの社会に如何に生かすかを検討する	2.8
	教育目標	学力の育成	教員の授業力、教科指導の向上	学力差の大きい生徒への対応として、教材・指導法の改善に努めた。模試の成績等、数値による成果が徐々に現れている。	コースの特長を踏まえた授業の深度、進度について、さらに工夫する	2.7
		国際力の育成	海外研修、留学制度の再開	海外研修（メルボルン、ニュージーランド）を再開し、生徒へ貴重な経験の機会を提供できた。	海外研修・留学以外で国際力を育成する仕掛けを模索する	3.0
		情報力の育成	ICTリテラシーの育成、教材の活用	ICT教材・アプリ教材を導入し、授業や朝学習などで活用している。	ICT教材・アプリ教材の効果検証を行う	3.3
		人間力の育成	探究活動、部活動、課外活動、人権・道徳教育のさらなる推進	特別活動や部活動等を通して人格形成を行った。中高時代に必要な経験を教育活動を通じて行えた。	学力だけでなく、人間力育成を何によって行っているかを示す必要がある	3.2
	学校運営方針	広報活動 入学者数の確保	教職員全体での広報活動 広報イベントの積極的展開	ていねいな対応で本校の魅力を伝え、多くの受験生、保護者に本校を知っていただけたが、十分な状況ではない。	多様な用務で多忙な全教員も、協力してもらう形で関わる学校見学会・説明会も本校の魅力を伝える内容を工夫する	2.7
			高校募集の強化	高校入試アドバイザーを起用して中学訪問体制を変えた。	今年度以上に中学校への訪問とPR物の配付を行う	2.2
		学校評価制度の導入	生徒・保護者・第三者のニーズや意見の把握と課題の改善 生徒、保護者の満足度の向上	生徒・保護者・教員のアンケートを実施し分析した。 進学実績、生徒対応等を中心に多くの要望が寄せられた。	課題を組織的に改善する体制を敷き、状況を把握し対策を進める。前年度以上の満足度が得られるよう組織的に取り組む	3.2
学校運営	学校運営方針	教育改革の実行	現代社会、近未来の志向を睨み、新コースの検討 新コースの教育内容、教育課程の制度設計の遂行	コースの独自性と特色づくりを推進するため、改革推進会議で検討し、新コースを決定した。 コースの独自性と特色づくりを推進するため、改革推進会議と教育課程委員会合同で検討プランを策定した。	受験生にとってわかりやすいコース改革の広報が必要。	3.0

令和4年(2022年) 学校評価報告書

学校運営	学校運営方針	将来構想	５～10年度の社会状況を見据えた本校の進むべき方向性を議論 時代の変化に呼応した新しい教育観（理念・教育方針）の再定義を検討	少子化の加速、本校希望者の減少等の厳しい環境下での本校存続の選択肢の議論を、教職員全員で開始し、危機感をもって対応策を構築している。	歴史・伝統と時代の変化との合致が求められる	2.7
		教職員の意識改革・行動改革	社会動向を理解し、慣例的な行動からの変容	新しいコースに変わるタイミングで教育改革、教育創造に計画的に取り組んだ。	DX化、ICT機器の拡大などの変化には対応できているが、業務内容や教育の変革には慎重である	2.8
課題教育	教務	新学習指導要領改訂に伴う対応	適切な教育課程の編成	制度改革推進会議・教育課程委員会合同会議で作成方針、総単位数、特色教育について検討・策定	コースの目標設定とその実現のためのカリキュラム・ポリシーの提示	3.0
		大学入試対応	共通テスト対策、大学入試対策	共通テストの各教科の分析を行い、職員会議で全教員間の情報共有を行った。	各教科の主導による傾向分析を日常の授業等で活用する	2.7
		アクティブラーニングの実施	探究型・アクティブラーニング型授業の推進	探究については概ね計画通りに進行しているが、アクティブラーニング型授業については、コロナ禍のため計画通りにいかなかった。	本校が先進校として、アクティブラーニング型授業（グループワーク・ディスカッション等）を推進する	2.7
	国際	国際教育・グローバル教育	留学制度・海外研修プログラム 海外提携校との連携強化	国際コース1期生の大学進学実績からコースのミッションはある程度達成できた。研修プログラムはコロナ禍で停止していたため、今年度は検証不可能である。 コロナ禍においても海外提携校との連携も強化できた。	海外研修プログラムの検証は再開後に実施。またコース改編後の研修プログラムのあり方を定める	3.3
		海外提携校との連携強化	コロナ禍においても中国・韓国を中心に協定校、連携校を増やす	中国・韓国を中心に協定校、連携校を増やした。英語を軸とした交流、文化についての相互理解等、オンラインを活用して交流を進めることができた。	オンラインを通じての交流、生徒の受け入れも推進する	2.8
	情報	高度情報化への対応	タブレットを活用した授業、課題配信等の推進	タブレットの活用は進んでいる。	現在のアプリの効果検証を行い、効果的なアプリを研究する	3.3
	進路	学力向上	Ｓコースの習熟度別少人数教育の推進	Sa/Sbと成績に応じた授業を展開し、生徒の成績向上も確認できた。	各クラスのモチベーションの維持が重要になる	3.2
		学習支援	予備校連携「ハイレベル講座」「親和ゼミ」の活用推進による受験力の養成	難関大合格レベルの応用力を身につけるために予備校と学校が連携し特別授業を実施。	学校と予備校が協力して講座をつくりあげるという意識と、積極的に活用するという教員の理解が必要	2.3
		学習支援	放課後自習時間の延長、質問対応の実施、補習の実施による学力の底上げ推進	対応できた。さらに、学校で勉強するスタイルを定着させる。	多様な用務を整理して全教員で対応する	2.5
		中学校段階でのキャリア教育	6年間の指導計画、学年ごとの指導計画の設定	学年ごとに意識し、指導計画を設定した。	6年間の進路マップを示し、さらに自分の将来を考えさせる意識づけが必要	2.7
		受験対策	進路指導体制（相談・指導）	担任レベル、個人レベルでの対応が中心とし、進路指導部の情報提供によってサポートした。	進学相談できる体制を組織的に整備する。相談を受ける側として必要な知識を習得する	2.7
課題教育	生徒部	部活動	学業と部活動のバランス	ノークラブデー週2日を軸に調整した。	放課後・土曜日の活用とともに部活動の活動とのバランスを見直す	3.0
			部活動活動方針に基づく活動	強化クラブとそれ以外のクラブとの差異化は必要であるため、練習時間、休養日の設定について、ルール化した	強化クラブの特性・特例を明確に示すよう強化クラブ運営委員会で取りまとめる必要がある	2.5

達成度の評価：A…よくできた　B…できた　C…あまりできなかった　D…できなかった　A=4　B=3　C=2　D=1　で点数化